

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.30

平成12年4月27日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association



英語学科と私

英語学科教授 菅原 勉

私が英語学科の教員になったのは今から30年前のことである。上智大学大学院文学研究科英米文学専攻修士課程を修了し、中学や高校の非常勤講師等を経た後、恩師である中野一雄先生(上智大学名誉教授。本年1月22日永眠。享年90歳)の助手として勤めたのが英語学科との出会いの始まりであった。否、学部の3年時にメイスン先生(故人)指導の下にシェークスピアの「マクベス」を原語で、上演したのが最初かもしれない。かなり辛口の批評をニッセル先生から戴いたのも憶えている。私が助手から専任講師になった当時の学科長は故野口啓祐先生であり、印象の強烈な先生であった。言葉は相当厳しい調子ではあったが、眼鏡の奥には優しい眼差しがあるのを認めたのは私だけではないだろう。助手になった頃、

中野先生やロボ先生、小稲先生(故人)、ニッセル先生、グラチアーノ先生等英語学科の先生が中心となって、日本で初めて直結する学科を持たない大学院言語学専攻が外国語学部で作られたのを思い出す。

いくつもの出会いと別れを経験し、いつのまにか英語学科教員の最古参の一人になってしまっている。随分多くの学科卒業生を送り出したことにもなる。また、これまで学生担当副学長や学事部長の仕事も無事にこなすことが出来たのも、学科の先生方のご理解の賜物と本当に頭の下がる思いである。英語学科の自由な雰囲気は何事にも代え難く、良き伝統は未来に伝えねばならない。大学の看板学科であるだけに、若くて有能な学科の教員が大学全体の役職に就くことが多くなるだろう。今度は是非とも協力する立場にまわりたいと思っている。これからも学科の教員として、常に前向きに生きることを心掛けたい。諸兄諸氏からの更なる叱咤激励とご教示を願うばかりである。

☆☆オール・ソフィアンズ・デーで会いましょう☆☆

●2000年度 SELDAA 総会&懇親会のお知らせ

2000年度総会を今年もオール・ソフィアンズ・デーに合わせて、5月28日(日)に開催します。

総会では、活動報告、議案の承認の他、SELDAAの今後の活動について、多くの方のご意見を伺いたいと思います。

総会終了後には、ささやかながら親睦パーティーを予定しております。会費は無料。是非皆様お誘い合わせの上お越しください。久しぶりの母校で、楽しいひとときを過ごしましょう。

2000年度 SELDAA 総会および懇親会

日時：2000年5月28日(日)

12:00～14:00

場所：上智大学1号館203教室

●SELDAA ホームページ

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~seldaa/>

「わかってくれた英会話に感激」

広田 祥久 (昭和32年卒)



すでに遙か遠くへいってしまった昭和32年、それは僕にとって上智卒業という特別な年であり、隔世の感がある。

ところで、僕等の在学中の英語学科の教授陣は7割が外国人だったし、他大学からは羨望的であった。そんな中で、一外国人教授から「10年、英語の学習を離れたら、もう英会話は無理」と聞かされたことを、今でも僕は透徹な論理として脳裏にこびりついている。一方、濃淡緑の芝の上を流れる季節の風、あおぎみる十字架にとまる平和な鳩、年ふけて益々感慨を多とするこの頃である。

職場では、5年前に退職するまで外国人招待の式典に駆り出されても英語を使う部署へ配属されることはなかった。転ばぬ先の杖でささやかな努力はしたが、所詮、職業と趣味の域では差が大きい。

しかし、ひょんな出来心から2年前家内同伴で「北欧」へ旅する機会を得た。空港、見学、買物先等々異なる場所で話を交し合った。勿論、僕の語学力では相手の感情を察して話すなんて至難の業だったが、外国人の親切な心に触れたり、ちょっとした幼稚な冗談を高いレベルの位置に置き換えてなるほどと思う良い表現を学ぶこともできたし、また雄大な自然にも多くの感動を得るなど、英語が老いゆく我が人生に異国の地でこんなに心のときめきを与えてくれるとは想像もできなかった。

確かに学校は厳しかった。1分遅刻しても正門に立つ外国人教授は入校を許さなかった当時、電車の遅れは日常茶飯事だったから、いきおいその言葉が出てしまう。反面、建学の理念に燃え、人の愛や家庭の雰囲気や大切にする教育理念は素晴らしいとしか形容の言葉を知らない。英語学科卒業生の皆さん、上智で培った語学力を生かして更に世界に向けて羽ばたこう。語学は生活を豊かにする。次に一言、幸か不幸か僕等が卒業した次年度から女性姿が目にとまる男女共学が実現するなんて残念の極みだった。

「信頼される弁護士を目指して」

セントラル法律事務所 弁護士 川合 順子 (旧姓香川) (平成元年卒)

大学卒業後、日本興業銀行に就職。2年半にわたり、調査部でマクロ経済分析の業務に携わりました。銀行員時代から法律の勉強は少しずつ行っていました。退職の翌年(平成4年)、司法試験合格。弁護士になって、今年で6年目を迎えました。

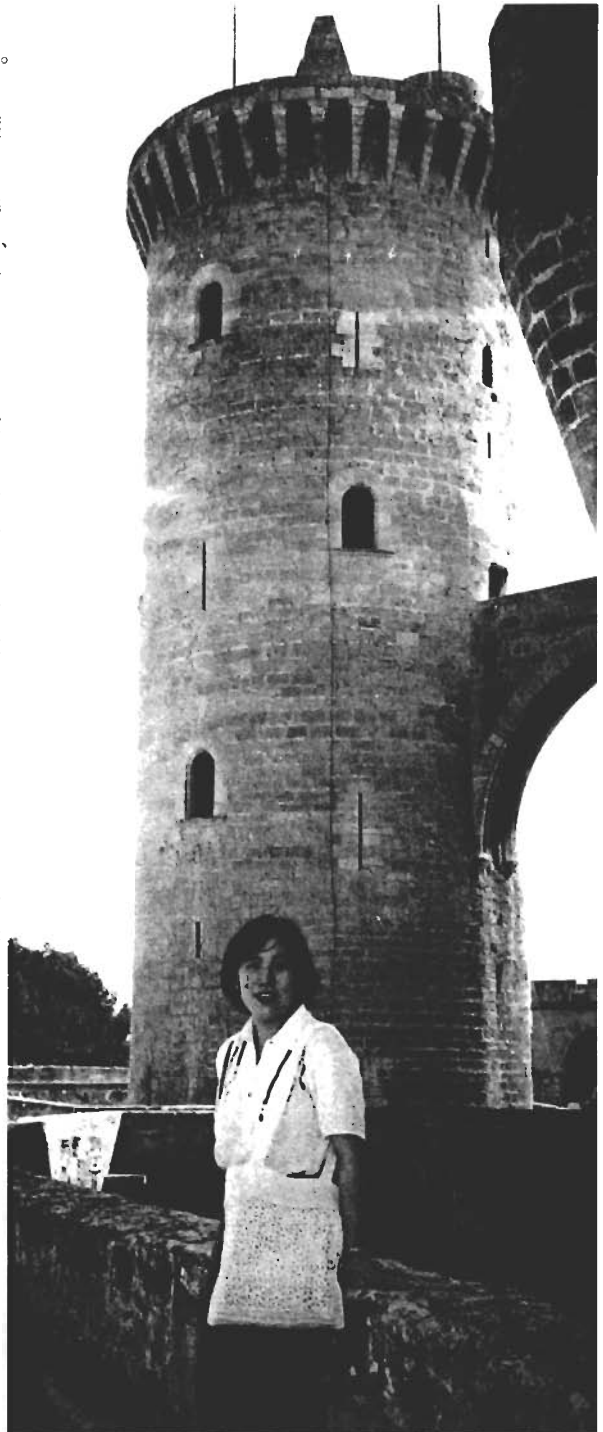
仕事の内容は多岐にわたりますが、中心は一般民事事件です。貸金、建物明渡、境界確定、交通事故、相続、離婚、自己破産、・・・と様々な紛争の解決に駆け回る毎日です。刑事事件も(民事と比べると少ないですが)ほぼ常に1~2件受任しています。また、弁護士を志した理由の一つである人権課題への取り組みも続けています(現在、過労死・過労自殺事件や、外国人の人権問題に取り組んでいます)。

自分になってみて感じる弁護士の実際の姿は、予想していたよりも地道な作業が多いというものです。証人尋問等の法廷活動はごく一部。むしろ、関係者からじっくり聞き取りを行い、証拠資料を丹念に検討し、事件記録を繰り返し読み、法律文献や判例を調べ、裁判所に提出する書面を作成する、といった作業にかなりの時間を割くことになります。その意味では、会社員時代に経済データを分析してレポートをまとめる訓練を受けていたことが、対象・内容は全く異なるとは言え、現在の業務にも役立っているかもしれません。

日常業務の他に、弁護士会の広報の活動(公益的活動)も楽しんでます。裁判傍聴会の案内人を務めたり、学校の生徒さん達相手に弁護士生活の説明をしたりと、普段の仕事だけでは出会わない人達とふれ合えるのが魅力です。

今後も依頼者を始め周囲から一層の信頼を得られるよう努力したいと思います。

〒105-0004 東京都港区新橋1-18-2明宏ビル7階
E-mail:june@sophia.cc



マジョルカ島・ベルベル城にて

卒業生短信

3月中旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。)

■平成11年7月末に主人の転勤に伴い、デンマークのコペンハーゲン近郊に転居しました。3歳になる息子を連れての海外生活は、自分が小学生の頃に親の転勤でアメリカで生活した状況とは全く異なり、とまどう事が沢山あります。(子供の幼稚園の事、海外で家を借りた時、その家をどうやって管理するかなど——日本とは全く異なる庭付き一戸建てです。)

デンマークには私の知っている限りでは、上智の卒業生が一人だけいます。2年の滞在を予定していますが、この2年間でムダにしないよう、一生懸命に生活していきたいと思います。

こちらの国民は大半が英語を比較的上手に話すので助かります。

北欧に関する情報をお持ちの方、また、何か私でお役に立てることがありましたらメールをください。

e-mail: Komiyama@mail.tele.dk

小宮山(旧姓 立花) 寛乃(平成元年卒)

■1999年中は自分の住んでいるマンション管理組合の理事長を一年間(1年前は副理事長を一年間)務め、特に8~10月は、管理会社を変更し、住み込み管理を通勤管理に替えるため、アンケート2回、住民集会4回、理事会・専門委員会合同会議を連日連夜のように開き、最後は臨時総会、年末の通常総会と、超多忙な1年で、貴重な経験をしました。

この間、10月15~17日に胃カメラ検査で2泊3日入院しましたが、胃の粘膜のがんはなくなり、胃を半分切るのは免れ、ホッとしました。

また、12月1~2日は阪神甲子園へ毎年出張し、時事通信社杯を専門学校公式野球大会へ寄贈し、今年は10年目で感謝状を贈呈されました。

佐々木 寛(昭和34年卒)

■昨年9月に結婚して、主人の赴任先の名古屋に引っ越しました。上智大学からは遠くなりましたが、姉妹校ともされる南山大学にとっても近いところに住むことになりました。これも何かの縁だと思い、聴講や社会人向け授業など参加しようと思っています。

岡田(旧姓 信藤) 理子(平成7年卒)

■1999年度の主な仕事は、『別冊宝島457 一もっと知りたいホラーの愉しみ』のキングコング論と翻訳チームの一員として参加した『現代文学・文化理論家事典』(松柏

社)です。御笑覧ください。2000年度は他大学に異動し、家族とともに東京を離れる予定です。気がつけば、留学期間も含め、上智に13年もいたんですね。早いものです。

下楠 昌哉(平成3年卒)

■神奈川県で県立高校の教員をしています。23年目にして、きわめて進学率の高い(上智大の外英にも手の届く)高校に異動し、とまどいながらも、学習意欲の高い生徒をいかに刺激するか楽しい毎日を過ごしております。

佐藤 方則(昭和51年卒)

■先日、フォーブス神父没後20周年、ニッセル神父来日50周年ということで、久しぶりにクルトゥルハイムでのミサに出席いたしました。ニッセル神父が非常にお元気で、相変わらずのシャープさでした。なぜ当時日本を選んで赴任されたのですかと聞いたところ、"Japanese lacked education"と返ってきました。とても楽しい時をニューオータニの17階で過ごすことができました。さすがにミサの後で食べ放題というわけにはいきませんでした。つつい普段の生活でテニスの後のビールと食べ放題のイメージを描いていた間違いでした。ともあれ、我々の知っている神父様たちがいつまでもお元気でと祈り申し上げます。

木村 康(昭和45年)

■昭和37年卒業以来コンピュータ業界で37年間、仕事をして参りましたが、平成11年3月に無事、ユニシス(株)を定年退職いたしました。

今は農業が主体の生活です。知人の農家から遊休の一反(300坪)を借り、トラクターから耕運機の操作、秋野菜を中心に、"土作り"に忙しくしています。

上原 哲男(昭和37年卒)

■昨年4月より学校カウンセラーを目指して大学院生となりました。「教師と生徒のかかわり」を主な研究テーマとして、現在教職にある方、または、元教職にあった方から、生徒とのかかわりについて考えておられること、苦勞しておられること、成果があったこと等々、お話を伺うことができたならと願っております。興味を持ってくださる方、連絡お願いいたします。

E-mail: marinagata@mub.biglobe.ne.jp

永田(旧姓 柏木) 麻里(昭和61年卒)

■卒業以来、はや7年が経とうとしています。卒業後は、NHKの関連会社で文化事業の企画・制作に携わっており、これまでに展覧会、コンサート、シンポジウム、スポーツイベント、周年事業など、様々なイベントを経験してきました。

もともとは英語学科ですから、とくに美術が専門というわけではなかったのですが、幸か不幸か好奇心旺盛で人と会うことが大好きだったので、日々大変楽しんで仕事をしております。

そんな私が最近一番印象に残っているのが、古代遺跡モヘンジョダロへの出張です。これは、NHKがこの8月に東京・横浜の4会場で同時開催する『世界四大文明展!』の一つ、『インダス文明展』の準備のために出かけたのですが、そこで見た夜明けは本当にすばしかったです。モヘンジョダロは当然初めてでしたが、4500年以上も前の古代に繁栄した都市文明の名残は、思った以上に壮大で迫力があり、先人の英知と豊かさによって魅了されてしまいました。

インダス文明展は東京都美術館(平成12年8月5日～12月3日)と名古屋市博物館(平成13年1月20日～2月25日)の2ヶ所で開催されます。一点一点丁寧に選定し、インド・パキスタンの両国の所蔵品を一堂に展示するのも世界初の試みですし、先日大きく報道された注目のインド・ドーラビーラ遺跡の遺物も世界に先駆けて公開いたします。ぜひ見に行ってください。その他の文明展についても詳しい情報をNHKのWWWサイトでも紹介しています。どうぞこちらもご覧ください。(http://www.nhk.or.jp/event/bunmei/index.html)

それでは、8月に会場の皆様にお会いできることを楽しみにしております!

高橋 美奈子 (平成5年卒)



「モヘンジョダロ遺跡の撮影の合間にパチリ。ここで見た夜明けは素晴らしい。」

■英語学科の同窓生の皆様こんにちは。

本年度の「オールソフィアンの集い—ASF2000 きっと会える!」の実行委員長をしております田澤弘美(S.55卒)です。入社以来エジプト9年、シドニー2年、ジャカルタ5年と渡り歩きほとんど日本にいなかったの、大役を引き受けるにあたって心配でしたが、前年度実行委員長のポン友吉村司氏から、「オリキャンの実行委員会みたいなものよ」との説明を受け、事情もよくわからず引き受けたのが運の尽きでした。

でも、実行委員会にたくさんの英語学科OB・OGが参加してくれ(下記参照)、右も左もわからぬ小生をサポートしてくれています。

皆さん、5月28日(日)の当日は是非あの懐かしい顔に会いに、大学まで久しぶりに足を運んでみませんか?! また、当日会場でのボランティアも募集しています。一緒に手伝ってくれるという方大歓迎です。連絡は下記小生のアドレス宛にお願いします。

teddytw@email.msn.com

teddytw@psa.kajima.co.jp

それでは、当日「きっと会える」ことを楽しみにしています。

田澤 弘美(昭和55年卒)

* 英語学科OB・OG実行委員

吉村司(昭和54年卒)、

大谷雅子・松村厚子・元木恵子(昭和55年卒)、

木村陽代(昭和56年卒)、

加藤泰樹・斎藤資晴・佐古建夫(昭和58年卒)、

吉野暁子(平成2年卒)

～お知らせ～

SELDAAの初代会長を務められた鈴木達也氏(昭和38年卒)が、この度『喫煙伝来史の研究』を出版されました(思文閣出版、5,500円)。この本を出版するに至る経緯については、会報No.27(1998年11月発行)の「卒業生便り」に、鈴木さんご本人が書かれています。

なお、2000年3月8日付 日本経済新聞の文化欄に、「喫煙伝来南蛮人が“パイプ” 10年かけ古文書・資料精査し、歴史書に大成」という見出しで、10年間に及ぶ鈴木さんの研究成果が紹介されています。

皆様からの短信をお待ちしております。

近況、自分の書いた本の宣伝、等々、何でも結構です。会報に同封している葉書に書いてお送りください。

SELDA セミナー

新名称は SELDAA セミナー!!

毎月一回、水曜日 10:30～12:00、ソフィアーズ・クラブで開催されております女性セミナーは、この度名称を **SELDAA セミナー** に変更いたします。

女性に限らず、男性も含めたより広い層の同窓生の方々の参加を期待しています。事前の予約は不要です。どうぞ一度、ソフィアーズ・クラブへお出かけください。

昨年度後半に開催されたセミナー

1999年11月24日(水)

猪口 邦子氏

(上智大学法学部教授, 法学部国際関係法学科長)

『新しい国際社会と市民社会の役割』

冷戦後の国際社会のキーコンセプトとしてあげられた Globalization with a human face, National Security and Human Security のように、最近の国際社会では人間レベルにたった価値観への推移が一つの大きな特徴だということです。また、**電腦革命**が、まさに産業革命やインド航路発見に比せられる大きな革命であり、相手に直接アクセスできることで、社会の中で、身分崩し、本物志向が促進される。そして、そういう時代に対処するためには、一人一人が Core Competence をもたなくては行けない、など、大変知的興味をかきたてられるお話でした。

1999年12月8日(水)

井上 久美氏 (上智大学外国語学部英語学科教授)

『Experience is a brutal teacher …英国でのサバティカル——サバイバルを終えて』

サバティカルでイギリスのバース大学に子連れで留学された時のイギリス生活の苦労話を聞かせてくださいました。家の借り方からはじまり子供の学校にわたるまで、英語に堪能な井上先生にさえ「タフであった」と言わしめたイギリスはすごい……?!

2000年1月26日(水)

Mr. James Farrer (上智大学比較文化学部講師)

『Cultural Change in Contemporary China』

隣国中国の動向は日本にとって大きな関心事です。でも、私達は中国のことをどのくらい知っているのでしょうか。

明朝時代に近代化への足がかりをつけた中国は、

その後のアヘン戦争、列強の侵略で近代化が大きく遅れました。しかし、1979年以後、共産主義の下、めざましい勢いで近代化を推し進めてきました。ところが、経済繁栄の恩恵を受けている人々はごく一部であり、また他方では金銭崇拜の悪因をもたらしたように、近代化をもたらした悩みも大きいのです。巨大な可能性と様々な矛盾を抱えた中国を理解する鍵は、広大な領土にわたる地域差と民族の多様性にあるようです。次回のお話が楽しみです。

2000年2月23日(水)

Fr. J. Garralda (上智大学文学部人間学研究室教授)

『港』

必要とすることのできる場、理解できる場、楽しくて落ち着くので一緒にいたい場、ゆるしあえる場、これはみな「港」そのものです、と語られる先生の言葉は心にしみいるようで、中でも、「相手が言ったことよりも相手が言いたかったことを理解できる人」「最高の相手は一人である喜びを奪わないで、なおかつ一緒にいる喜びを感じさせてくれる人」「安心感、刺激、希望を頂いて、その港を心の中に入れてもう一度海に出られるように」などのお話が印象に残りました。来た時よりも優しい気持ちになって家路に着くことができました。



2000年3月8日(水)

石倉 洋子氏 (青山学院大学国際政治経済学部教授)

『成功・失敗へ二極化する企業——その違いはどこに?』

バブルがはじけ、不景気といわれる日本で、このところ企業の業績や株価が二極化する傾向が目につくようになりました。勝ち組と負け組を分けたものは何なのか。

大きくなってきた金融市場の力、国境を越え業界を越えた競争、中でも企業のトップがいかにデジタル革命の影響を認識していたかが、企業の運命を決定づけたようです。

インターネットはインフラであり、プラスにもマイナスにも桁違いの変化を社会にもたらす可能性を持っていること、そして、私達の世代が懸け橋となって次代の子供達に、自分で情報を判断できる個人になることや、ディスプレイ上の情報と現場の情報は違うということを教えていかなければならない、というお話が大変印象に残りました。

(以上、SELDAA セミナー担当 安西徳子)



SELDAA セミナー 新学期の予定

4月26日(水)

笠島 準一氏 (上智大学外国語学部教授, 英語学科長)

『外国語の習得』

5月24日(水)

岡田 仁孝氏 (上智大学比較文化学部教授)

『NGOs and Development』

6月28日(水)

吉田 美枝氏(翻訳家)

『ミレニアムのギリシャ悲劇 —この秋に上演される「グリークス」の台本翻訳について—』

7月12日(水)

Prof. Saadollah Ghaussy (上智大学比較文化学部教授)

『Fundamentalism and its Characteristics (in Christianity Islam and Judaism)』

場所：ソフィアーズ・クラブ

時間：10:30～12:00

会費：3,000円/年(英語学科卒業生)

5,000円/年(英語学科以外)

500円/1回毎

*事前の予約は不要です。

当日直接会場にお越しください。

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会までお知らせください。また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。

2001年(平成13年)3月頃には英語学科同窓会の名簿を発行する予定です。皆様のご協力を是非お願いいたします。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは、同封の葉書にご記入の上、お送りください。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局

TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910

E-mail:seldaa@mve.biglobe.ne.jp

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払い方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金もあわせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》

封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

◆ SELDAA 常任委員 (平成12年4月現在) ◆

■名譽会長/笠島 準一 (昭和48年卒)

■女性セミナー/安西 徳子 (昭和49年卒)

■会 長/蔵田 實(昭和48年卒)

■常任委員/石川雅弥 (昭和40年卒) 斎藤 敬子 (昭和48年卒)

■副会長・事務局長/大日方聖信 (昭和62年卒)

相馬 晶夫 (昭和54年卒) 増田 光 (昭和59年卒)

■副 会 長/池沢なるみ(昭和48年卒)

東郷 公徳 (昭和62年卒) 栗村 真 (平成4年卒)

■会 計/内藤恭子(昭和55年卒)

■監 査/井坂由美子 (昭和47年卒) 岩村玲子(昭和49年卒)

寺北ゆかり(昭和61年卒)

■会 報/佐藤誠一郎 (昭和53年卒)

《編集後記》

●会報も今回で30号。40、50・・・と、これからも充実した会報作りを目指したいと思います。

皆様のご協力をお願いいたします。(M.)

●それでは、皆さん、5月28日の総会で会いましょう。(S.S.)